

2023年3月5日 主日礼拝

説教題「この神殿を壊してみよ」ヨハネ福音書 2章 13～22節

主任牧師 加藤 誠

「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』(ヨハネ2章19節)

「私たちがささげる礼拝の本質とは何か?」「礼拝で一番大切なことは何か?」。これが今朝のテーマです。

カナの婚礼で「最初のしるし」をあらわされた主イエスは、次にエルサレムに赴かれ、エルサレム神殿で大変な大立ち回りをされました。イエス・キリストとさえ、優しくにこやかな姿を思い浮かべることが多い私たちにとって、この場面の主イエスの姿には戸惑いを禁じえません。「縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた…」(15-16節)。これらの言葉からは、主イエスの険しい憤りのこもった表情が見えてくるようです。弟子たちは「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した詩編の言葉を思い出したとありますが、これは詩編 69編 10節の言葉です。「あなたの家」というのは「神さまの神殿」のこと。「食いつくす」とは「思いがこみあげて、あふれる」という意味であり、このとき、主イエスが神さまの神殿を思う熱い思いが心の底からあふれ出て、毛穴のすべてから吹き出ているような様子であったということです。それほどまでに主イエスはここで、人々に、激しく熱い問いをぶつけられたのでした。

同じくヨハネ2章の直前のカナの婚礼で、ぶどう酒を水に変えるという奇跡をもって婚礼の席についている人たちみんなに笑顔を届けてくれた主イエスとは大違いのように見えるのですが、しかしながら、ここで主イエスが示そうとされていることは決して別々のことではありません。そこでは「神を礼拝するに際して大切なこと、無くてならないものは何か」という問いを巡る、神の国の福音の根幹にかかわる大切なことがらが示されているのです。

カナの婚礼で主イエスは、ユダヤ教が大切にしてきた「清めの水」はもういらないのだ…とされました。神の前に「清い者」「ケガレタ者」の差別を生み出していた「清めの水」はもういらぬ。「最良のぶどう酒」、つまり「十字架にあらわされた神の愛」を感謝して受けていく信仰こそが大切なものであることが示されたのでした。神の前にどれほど重い罪を犯した者にも注がれる十字架の赦し。その十字架の愛を真ん中に、お互いを受け入れ合い、大切に覚えあう交わりこそが、神の国の礼拝にふさわしいとされたのです。

そして今日のこの場面で、主イエスが第一に示されたのがユダヤ教が大切にしてきた「動物の犠牲」はもういらぬ…ということです。なぜなら、この場面ではまだ誰も気づいていませんが、ここに神の子であり神の小羊であるイエス・キリスト

が立ってくださっているから。十字架において、私たちのすべての罪を引き受け、神の永遠の愛と赦しを宣言してくださった方が、私たちの間に真ん中に立ってくださっているゆえに、その十字架の赦しを感謝して受けていく信仰だけが必要なのであって、もはや「動物の犠牲は要らない」ことを示されたのでした。

もう一つ、今朝の箇所の主イエスが私たちに向かって語られ、問われていることがあります。それは「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」（19節）という言葉です。これは「エルサレム神殿こそが信仰の中心だ」と考えていた人々にとっては大変な問題発言でした。後に、主イエスが十字架につけられる前の裁判で、「この男が『神殿を壊して三日で建て直す』と言うのを聞きました」という証言がされているように、ユダヤ教の人々にとって「エルサレム神殿を壊す」などということは、神に対する冒涇の罪の最大級のものであって「ありえないこと！」「考えるだけでも恐ろしいこと！」でありました。ただ、ここで興味深いのは、マルコとマタイの裁判の場面では「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』というのを聞きました」と報告されている点です。つまり「わたしがこの神殿を壊す」と言われていて神殿を壊すのは主イエスなのです。それに対して今朝のヨハネでは主イエスが人々に対して「（あなたたちの手で）この神殿を壊してみよ」と過激に挑戦的に問うているわけです。似ているようですが違います。明らかにヨハネでは、主イエスが人々の信仰を問うています。「あなたたちにとってこの神殿とは何か？」「あなたたちの神礼拝の中心にはいったい何があるのか？」と。つまり「あなたたちはこの神殿という『建物』を見ている。『建物』にすぎないものを絶対的なもののように考えている。けれども、この『建物』を『神殿』とし『神礼拝の場所』にされる方、この『建物』において礼拝を起こされる方への礼拝が、ほんとうにここに起こされているのか？」と。

もし今日、主イエスがここに立たれて「この礼拝堂を壊してみよ」と言われたら、私たちは何と答えるのでしょうか。「新しい礼拝堂が整えられたから」、「礼拝のプログラムが整っているから」、私たちのささげる礼拝が神礼拝になるのでしょうか。そうではない。主イエスがここで問われているのは、「あなたたちの礼拝の真ん中に十字架が立っているか？」とということなのです。自らの罪、神への背きを見て、十字架の苦しみを引き受けられた方の前にほんとうに小さくされることが起こっているか。「十字架の主を通してこそ、私たちは神の真実の愛と赦しと希望をいただくことができる！」という真実な告白がささげられているか。霊と真理による礼拝となっているか。私たちがささげる礼拝の真ん中に何があるのか？を主イエスは問うておられるのです。受難節の日々、私たちの礼拝の真ん中に主の十字架が立てられることを祈っていきたいのです。